

トマト・ミニトマト、きゅうり、なす、メロン、とうもろこし、花き類の

コナジラミ類に

効く！！



タバココナジラミ

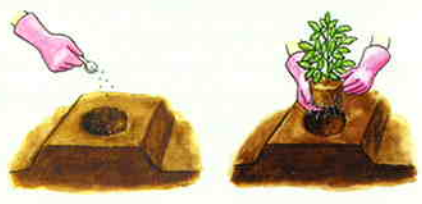
タバココナジラミ **バイオタイプQ** にも効く!!

タバココナジラミには、見た目では区別できない種類がいくつかあります。バイオタイプQは従来のコナジラミ防除薬剤の一部に対する抵抗性を持っているため、問題になっています。(詳しい説明は裏面に)

トマト・ミニトマト、なすは
は種時又は鉢上時からの
防除も効果的です!!

定植時

ベストガード粒剤を
植穴に1~2g処理 土に混和しながら定植



- コナジラミ類
……トマト・ミニトマト、きゅうり、メロン
- アブラムシ類
……トマト・ミニトマト、きゅうり、なす、ピーマン
- マメハモグリバエ……トマト・ミニトマト
- ミナミキイロアザミウマ
……………きゅうり、なす、ピーマン



農林水産省登録:第19103号

生育期

ベストガード水溶剤を
生育期に1000~2000倍で散布



トマト・ミニトマト、きゅうり、なす、
メロン、花き類・観葉植物



農林水産省登録:第19102号

ベストガード®

粒剤
水溶剤

ベストガードは住化武田農業(株)の登録商標

コナジラミ類
対策には!!

ベストガード®

粒剤
水溶剤

粒剤 - 農林水産省登録: 第19103号 有効成分: ニテンピラム……1.0% 毒性: 普通物

水溶剤 - 農林水産省登録: 第19102号 有効成分: ニテンピラム……10.0% 毒性: 普通物

適用と使用方法

ベストガード粒剤

(平成18年7月現在)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ニテンピラムを含む農薬の総使用回数
きゅうり	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類	1~2g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は3回以内)
トマト ミニトマト	コナジラミ類	5g/培土φ	は種時又は 鉢上げ時		育苗培土混和	4回以内 (育苗培土混和及び定植時の 土壌混和は合計1回以内、 散布は3回以内)
	コナジラミ類 アブラムシ類				1~2g/株	植穴処理 土壌混和
メロン	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類	2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
ピーマン	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株	収穫3日前 まで			植溝処理土壌混和
しゅんぎく	コナジラミ類 アブラムシ類 マメハモグリバエ	9kg/10a			生育期株元処理	

上記の作物の他に、稲、なす、すいか、とうがらし類、いちご、ねぎ、わけぎ、あさつき、レタス、食用ぎく、すいぜんじな、ズッキーニ、うり類(漬物用)、きく、きんせんか、クリサンセマム、ペチュニア、パンジー、花き類・観葉植物にも適用があります。

ベストガード水溶剤

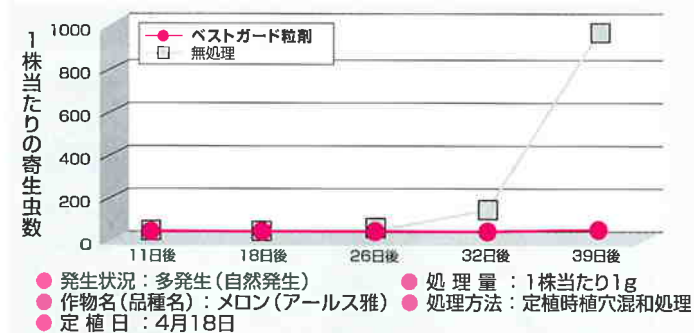
(平成18年7月現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ニテンピラムを含む農薬の総使用回数
きゅうり	コナジラミ類 アブラムシ類	1000~ 2000倍	100~300φ /10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は3回以内)
メロン	コナジラミ類 アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ			収穫7日前まで			
なす	コナジラミ類 アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ			収穫前日まで			
ピーマン	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ			発生初期	4回以内		
トマト ミニトマト	コナジラミ類 アブラムシ類 アザミウマ類	1000倍					4回以内 (育苗培土混和及び定植時の土壌混和は 合計1回以内、散布は3回以内)
花き類 観葉植物	コナジラミ類						4回以内

上記の作物の他に、稲、ばれいしょ、すいか、だいこん、いちご、レタス、もも、りんご、なし、ぶどう、かんきつ、かき、茶、ポインセチア、きく、ばら、ゆり、たばこ、食用べにばなにも適用があります。

試験成績

ベストガード粒剤(シルバーリーフコナジラミ) 平成17年 静岡県農業試験場



【注意事項】(粒剤)

● トマトおよびなすの鉢上げ時においては、直径9cm程度の鉢までとして下さい。

【注意事項】(水溶剤)

- ボルドー液など強アルカリ性の薬剤とは混用しないで下さい。(分解)
- なし園での重複散布はさけて下さい。
- ぶどうの袋かけ直前の散布はさけて下さい。(果粉溶脱)
- 薬にかからないよう注意して下さい。かかった場合は15日間給薬しないで下さい。(蚕毒)
- 保管の際には必ずキャップをして下さい。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載以外には使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

タバココナジラミバイオタイプQとは?

- タバココナジラミには、形態的には識別困難な40以上の系統(バイオタイプ*)が存在し、国内では在来系統(バイオタイプ不明)とシルバーリーフコナジラミ(バイオタイプB)およびバイオタイプQが確認されている。
- バイオタイプQは、1996年にスペインで初めて確認され、日本では2005年に宮崎県で初めて見つかると、2006年7月現在、27都府県で発生が認められている。
- シルバーリーフコナジラミは、これまでタバココナジラミとは異なる種類とされてきましたが、最近の研究ではタバココナジラミのバイオタイプBとされている。

*形態上ほとんど区別ができないが、遺伝子型、植物への寄生性等の生物学的性質が異なる系統のこと。

【注意事項】(共通)

- ミツバチ、マルハナバチに影響があるので注意して下さい。(導入可能日数 水溶剤: ミツバチ6日、マルハナバチ10日、粒剤: マルハナバチ20日ごろ、環境条件で多少変動あり)
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

2006年8月作成 全新企画社 008